

敦賀発電所1号機の定期検査状況について
(中央制御室換気空調系外気取り入れダクトの腐食)

敦賀発電所1号機(沸騰水型軽水炉:定格電気出力35.7万キロワット)は、平成20年11月7日から第32回定期検査中ですが、平成20年12月11日13時45分、中央制御室換気空調系送風機の試運転時に換気系室の点検を行っていたところ、中央制御室換気空調系外気取入れダクトが腐食し、ダクトに貫通孔(横約20cm、縦約10cmと横約10cm、縦約10cmの2箇所)が生じており、当該部から外気の吸い込みがあることが確認されました。

当該系統は、実用炉規則^{*}での安全上重要な設備に該当し、この系統に要求される必要な機能(外気との隔離)を満足していないと判断しました。

なお、現在、原子炉は冷温停止中であり、本事象が原子炉の安全上に影響を与えるものではありません。

今後、中央制御室換気空調系外気取入れダクトが腐食した原因を調査する予定です。

本事象による周辺環境への放射能の影響はありません。

※: 実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則

添付図: 中央制御室換気空調系系統図

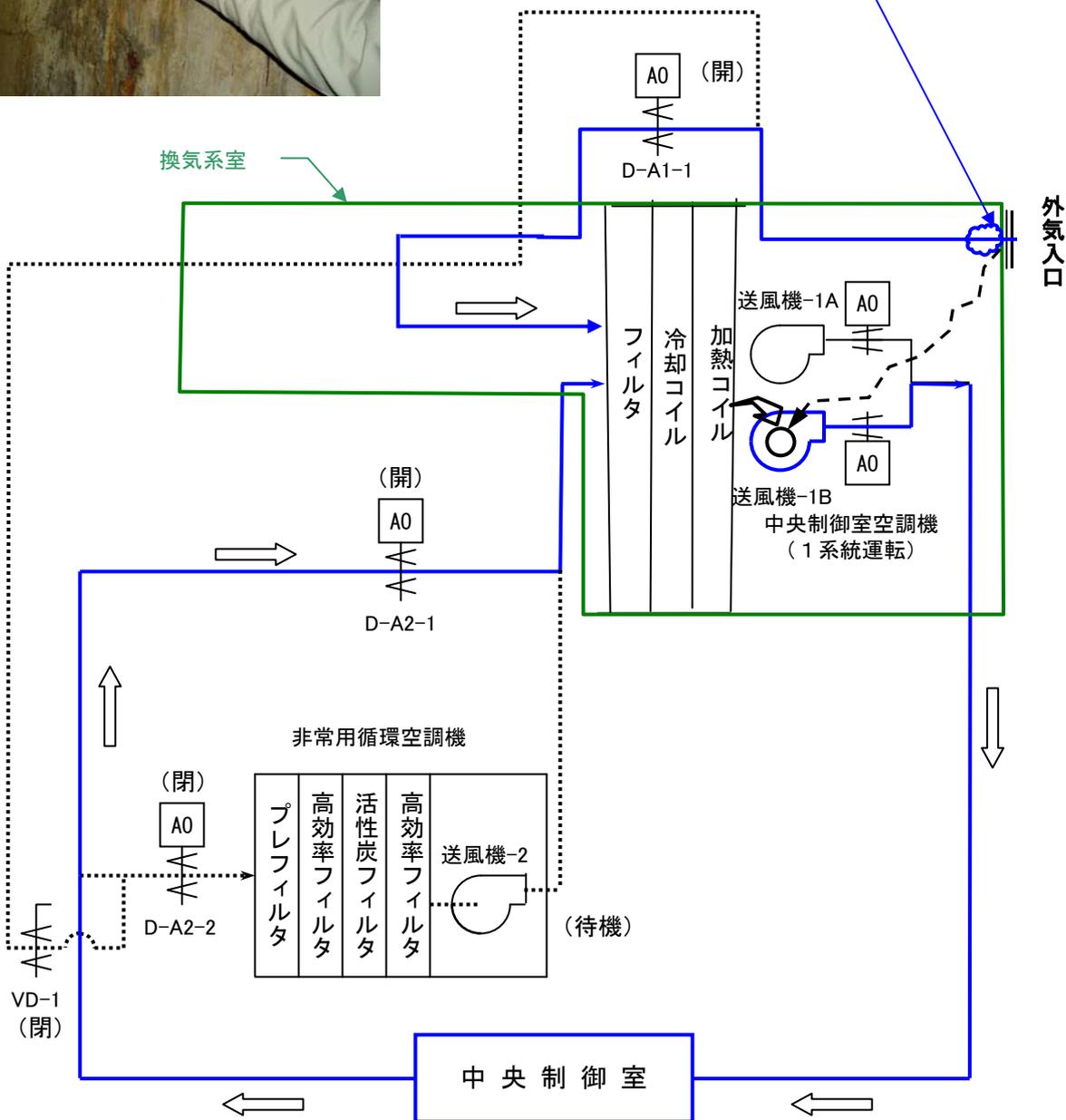
以上

中央制御室換気空調系系統図



外気取入れダクト寸法：約56cm×約61cm

腐食箇所
(2箇所)
約20cm×約10cm、約10cm×約10cm



注) 実線：運転状態を示す。
破線：非常時運転状態を示す。